The National Association of College Teachers for Japanese Language and Literature Education

I — 5

指導内容の系統性を課題とした国語科教育実習
── アンケート調査の分析と考察 ──

上越教育大学　有沢　俊太郎

塚本正則、常木二郎、三年前から国語科教育実習の調査研究会（代表・藤田正春）では、平成三年度に全国の国立大学国語科教育実習を対象にアンケート調査を実施し、回収した。この調査は、平成二、三年度の文部省科研費（一般研究C）を受けて、共同研究として行われたものである。この度、その概要を代表者が報告する。

国語科教育実習のあり方について、「系統性」という課題を中心に、高木、田中、有沢、藤田、国語科教育の問題点を明らかにし、一般的な傾向を探ることができたので、その概要を報告する。

上越教育大学の構想は、新構想大学として、昭和五十九年度から実施に移されて、四年目を迎えた。この実習（演習）は、教育実習を課題とした実習（演習）の試行錯誤を繰り返してきた。現在に至り、様々な問題があったが、「系統性」という課題を中心に、次のように記されている。

- 教育内容の分析
- 指導方法の研究、授業記録
- 学年間の段階的特色、系統性の発見と確認
- 学年間を通し、学校行事と関係させながら、教科、実験室の経営を考える。

上越教育大学『教育実地研究の手引』（専修教育実習）（教育演習）では、小学校でも教科専門を大切にしつつ、この教育実習の基本的な考え方である「系統」を考えさせることができたのかどうか、この度、アンケート調査に寄せられた様々なご意見、考察して、来年度以降の実習に生かすことが重要である。

NII-Electronic Library Service